

## 《薬局サーベイランスコメント》

『インフルエンザの患者数は急増しており、流行は本格化しつつあり。』

2016年1月19日

済生会中津病院感染管理室

安井 良則

### 薬 局 サ ー ベ イ ラ ン ス

(<http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasuikei/index.html>) からの 2016 年第 2 週(1 月 11 日～17 日)のインフルエンザの推定患者数は前週(第 1 週)の値(78,154)を大きく上回って 144,844 となりました(図 1)。各都道府県別の第 1 週の人口 1 万人当たりの 1 週間の推定受診者数をみると、新潟県、北海道、青森県、秋田県、沖縄県、岐阜県、福井県、岩手県、大分県、茨城県、長野県、東京都の順となっており、秋田県を除く 46 都道府県で前週よりも増加がみられました。第 3 週の月曜日(1 月 18 日)の推定患者数は 63,087 と今シーズンのこれまでの最高値の 2 倍以上の値となっており、インフルエンザの急増が続いていると同時に流行が本格化してきているものと考えられます。

2015 年第 36 週から 2016 年第 2 週までの累積の推定患者数は、365,486 (365,000) であり、年齢群別では 40～49 歳 (15.5%)、30～39 歳 (14.9%)、5～9 歳 (13.4%)、20～29 歳 (11.2%)、50～59 歳 (9.6%)、0～4 歳 (9.4%)、10～14 歳 (8.4%)、15～19 歳 (7.3%) の順となっています。小児の発生者の割合が増加してきていますが、相変わらず成人層が流行の中心であり、発症した場合に重症化しやすい 70 歳以上の高齢者層の割合は 4.5%となっています(図 2)。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報(<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>)によると、これまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(294 検体解析)は、A/H3(A 香港)亜型 40.5%、B 型 30.3%、A/H1pdm 29.3%の順であり、B 型インフルエンザウイルスの割合が増加しつつあります(図 3)。

2015/2016 シーズンのインフルエンザの推定患者数は 1 月に入って急増し、第 3 週からは本格的な流行となりつつあります。また、今後インフルエンザの患者数は更に増加するものと予想されますので、その予防対策には十分な注意が必要です。また、今後ともインフルエンザの患者数の推移には注意深い観察が必要です。

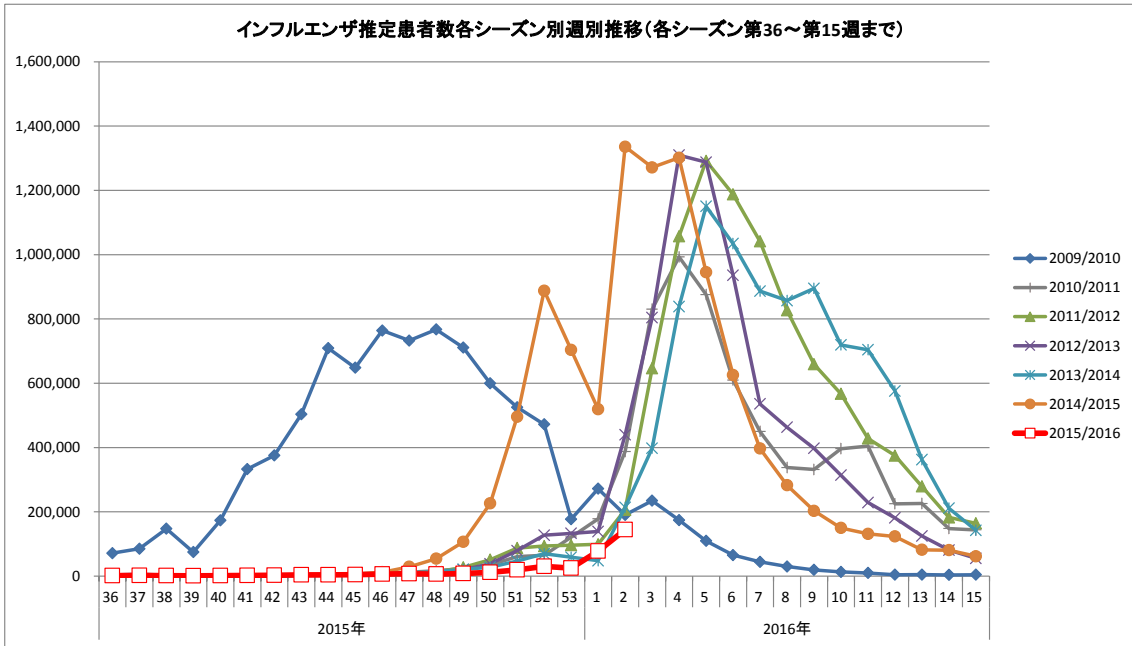


図 1. 過去 5 シーズンと今シーズン（2015/2016 シーズン）の第 36～第 15 週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

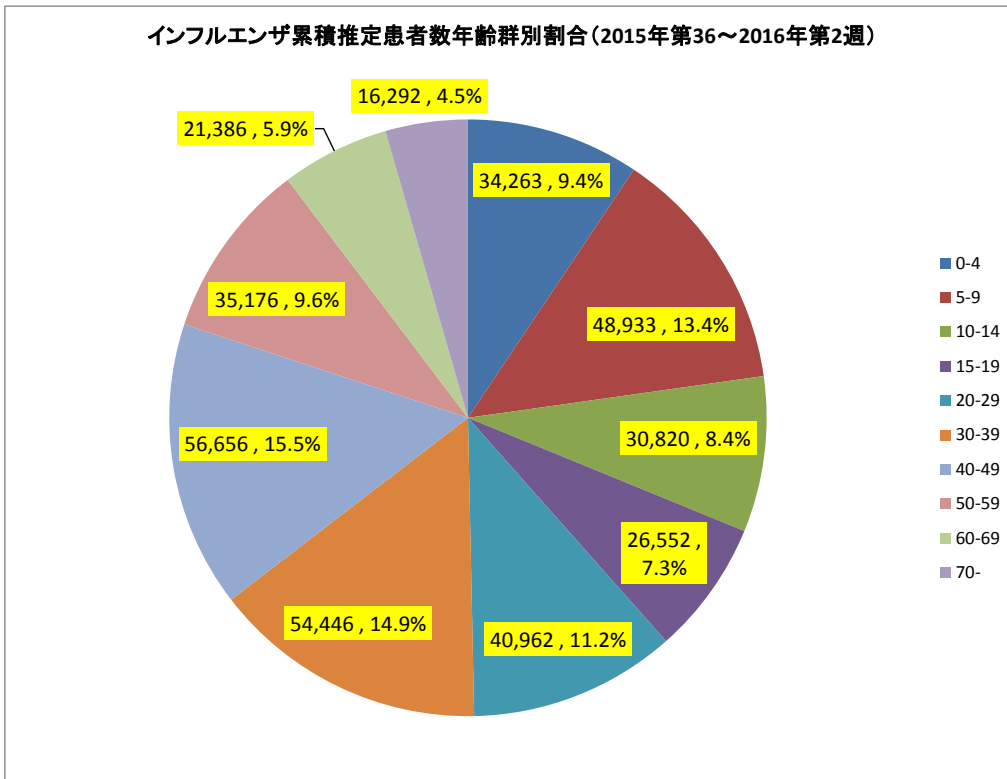


図 2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合（2015 年第 36～2016 年第 2 週、累積推定患者数=365,486）

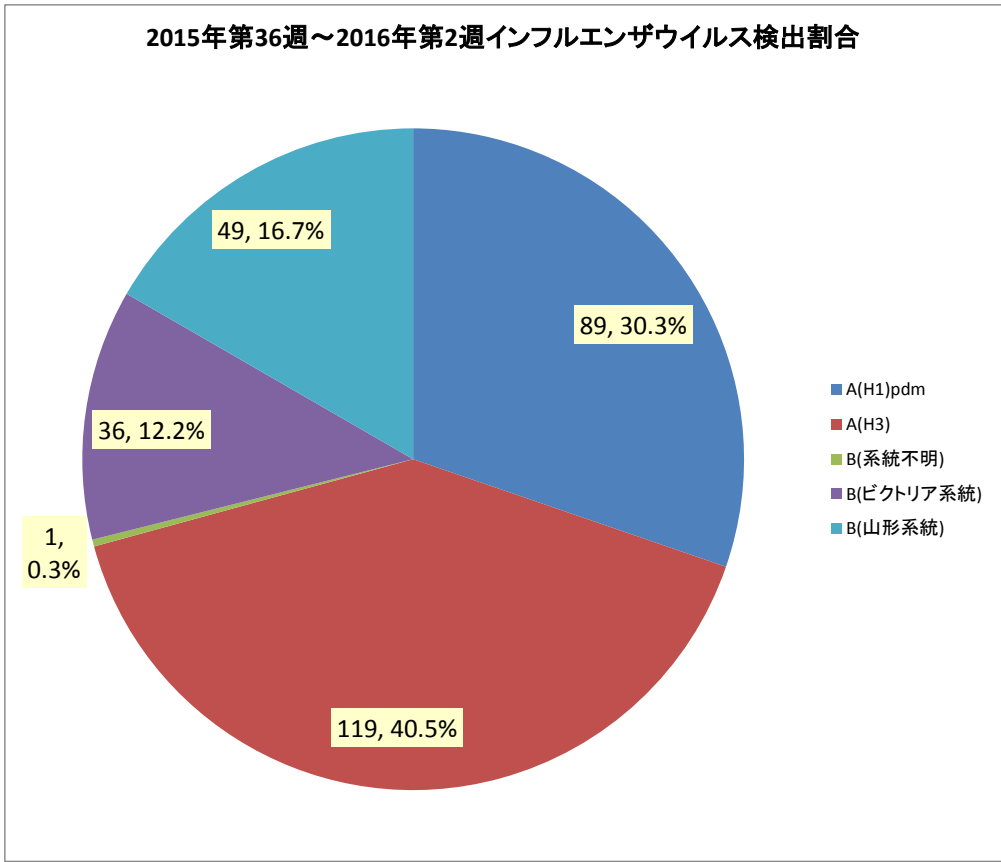


図 3. 2015 年第 36～2016 年第 2 週インフルエンザウイルス検出割合（総検出数=294）